

「新指定・新登録・新選定」答申物件

《史跡名勝天然記念物の新指定》

【史跡】 10件

1 ^{さまにさんどう} 様似山道【北海道様似郡様似町】

寛政11年（1799）、江戸幕府は北方警備を強化するため ^{ひがし え ぞ ち} 東蝦夷地を直轄にし、海沿いの道に代わる ^{さんどう} 山道を開削し、^{じんばつぎたて} 人馬継立の制度を整えた。伊能忠敬、松浦武四郎、榎本武揚などが通行し、記録を残している。明治初期の ^{はたごやあと} 旅籠屋跡も存在する。延長4. 51 kmを指定する。

（寛政11年（1799）、北方警備のためにつくられた蝦夷地初の幕府開削の道の一つ）

2 ^{さるさんどう} 猿留山道【北海道幌泉郡えりも町】

寛政11年（1799）、江戸幕府は北方警備を強化するため ^{ひがし え ぞ ち} 東蝦夷地を直轄にし、海沿いの道に代わる ^{さんどう} 山道を開削し、^{じんばつぎたて} 人馬継立の制度を整えた。^{ぬま み とうげ} 沼見峠には場所請負人が奉納した石碑や ^{ほこら} 祠が現存する。江戸時代の絵図に描かれた ^{とよに こ} 豊似湖などを望むことができる。延長6. 32 kmを指定する。

（寛政11年（1799）、北方警備のためにつくられた蝦夷地初の幕府開削の道の一つ）

3 ^{はらかんが いせきぐん} 幡羅官衙遺跡群

^{はらかんが いせき} 幡羅官衙遺跡

^{にしべつぶさいしいせき} 西別府祭祀遺跡

【埼玉県深谷市・熊谷市】

^{はらぐうけ} 古代幡羅郡家及びその ^{さいしば} 祭祀場などから成る官衙遺跡群。正倉をはじめとする多数の建物群や区画施設、鍛冶工房、祭祀場などの郡家を構成する諸施設が検出され、郡家の全体像が把握できるとともに、成立から廃絶までの過程が確認できる稀有な遺跡。地方官衙の構造や立地を知る上で重要である。

（古代幡羅郡家及びその祭祀場などから成る官衙遺跡群）

4 ^{こうどうじ はいじあと} 興道寺廃寺跡【福井県三方郡美浜町】

北陸において、創建から廃絶に至るまで ^{がらん} 伽藍の変遷が明らかとなった数少ない古代寺院。調査によって、金堂、塔、講堂、中門などの主要伽藍が検出され、寺域や伽藍の変遷が明らかとなった。7世紀後半の寺院造営の在り方と、仏教信仰の展開を知る上で重要である。

（北陸において、創建から廃絶に至るまで伽藍の変遷が明らかとなった数少ない古代寺院）

5 ふたまたじょうあと およ と ば や まじょうあと 二俣城跡及び鳥羽山城跡【静岡県浜松市】

今川・武田・徳川の攻防の舞台となった城跡。のち、堀尾氏によって織豊系城郭として、二俣城は軍事的拠点、鳥羽山城は居館として機能を分化しつつ整備がなされた。戦国期から近世にかけての城郭の変遷、政治・軍事のあり方を知る上で重要である。

（今川・武田・徳川の攻防の舞台となり、のちに織豊系城郭として、機能を分化しつつ整備された）

6 いぬやまじょうあと 犬山城跡【愛知県犬山市】

木曾川沿いの独立丘陵に築城された中近世の城跡。国宝天守を有する。江戸時代には尾張藩付家老成瀬正成が城主となり、明治維新に至る。公益財団法人犬山城白帝文庫は多くの史資料を収蔵している。戦国期から近世にかけての城郭の変遷、政治・軍事のあり方を知る上で重要である。

（戦国期に築城され、江戸時代には尾張藩付家老成瀬家を城主とした城跡で、国宝天守を有する）

7 ゆげでらあと 由義寺跡【大阪府八尾市】

道鏡の出身氏族である弓削氏の氏寺として成立した古代寺院跡。奈良時代後半の称徳天皇の西京造営に伴い官寺として塔が造営された。当該期における政治・社会情勢を反映しており、称徳天皇と道鏡による政策を知る上でも重要である。

（称徳天皇の発願により道鏡の本拠に造られた古代寺院跡、大規模な塔が造営された）

8 つわのはんしゅかめいけぼしよつたりかめいこれのりのほか 津和野藩主亀井家墓所 附 亀井茲矩墓【島根県鹿足郡津和野町、鳥取県鳥取市】

江戸時代に津和野藩主亀井家の歴代墓所として営まれた大名家墓所。同藩初代（亀井家二代）政矩以降の歴代藩主などが眠る墓域及び菩提寺であった永明寺境内（津和野町）が良好に残る。また、鹿野藩主として没した亀井家初代茲矩墓（鳥取市）を附指定する。近世大名の葬制や祖先祭祀のあり方、藩主を頂点とする身分序列を知る上で重要である。

（江戸時代に津和野藩主亀井家歴代墓所として営まれた大名家墓所）

9 いわみぎんざんかいどう 石見銀山街道【島根県邑智郡美郷町】

江戸幕府が直轄支配を行っていた石見銀山で産出した銀を大坂まで運んだ、石見国大森から備後国尾道までの街道。やなしお道など約6 kmを指定する。江戸時代の銀の輸送や経済活動を考える上で重要である。

（江戸幕府が直轄支配を行っていた石見銀山で産出した銀を大坂へ運ぶための尾道までの街道）

10 ^{いずものくにさんいんどうあと} 出雲国山陰道跡【島根県出雲市】

7世紀後半から8世紀にかけて、都を起点に全国に張りめぐらせた七道駅路^{しちどうえきろ}の一つ。延長1kmにわたって古代官道跡の痕跡を良好に留めており、当時の多彩な土木技術を知ることができる。また、その路線の一部が確定したことにより、『出雲国風土記』にみえる当時の道路網や沿線の官衙^{かんが}、寺院などの施設と照合することができる事例として重要である。
(7世紀後半から8世紀にかけて、都を起点に全国に張りめぐらせた七道駅路の一つ)

【名勝】 2件

1 ^{えんうんかんていえん} 煙雲館庭園【宮城県気仙沼市】

仙台藩上級家臣鮎貝^{あゆかい}氏の居館に江戸時代前期以降に築かれた庭園。気仙沼湾の景勝を南に望む丘陵部に立地して、主屋の西向きに設けられた大きな中島を伴う園池と背景林から成り、幽邃^{ゆうすいこうだい}宏大な風致を備えた優れた事例である。

(仙台藩上級家臣鮎貝氏の気仙沼湾を望む居館に江戸時代前期以降に築かれた庭園)

2 ^{きゅうひろせしていえん} 旧広瀬氏庭園【愛媛県新居浜市】

住友家総理人を務めた広瀬^{さいへい}幸平とその長男・満正^{まんせい}によって明治時代半ばから大正時代に築造を重ねられた庭園。本邸まわり、亀池、南庭^{なんてい}から成り、迎賓・祝祭・顕彰の場を兼ね備えた近代日本における地方の庭園文化発展を示す重要な事例である。

(住友家総理人・広瀬幸平の邸宅に明治半ばから大正にかけて築造を重ねた近代庭園)

【天然記念物】 2件

1 ^{ふたがわだんそうたい} 布田川断層帯【熊本県上益城郡益城町】

平成28年熊本地震で現れた地表地震断層。最大変位2.5mの右横ずれ断層、湧水が生じる断層崖の地形など、益城町杉堂^{すぎどう}、堂園^{どうぞの}、谷川地区^{たにごう}の3か所でみられる多様な断層運動の痕跡は、学術上価値が高く、災害遺構としても貴重である。

(平成28年熊本地震で現れた地表地震断層)

2 ^{ひゅうがみさき}日向岬の柱状節理【宮崎県日向市】

約1,500万年前の九州東部の大規模な火山活動による火砕流堆積物。高温の火砕流が広がって堆積して溶結し、冷却する際に柱状節理が発達したもので、日向岬の東端から約4.5kmの海岸は、高さ50mの断崖を含む複雑なリアス海岸を形成している。日本列島形成時の巨大火砕流の痕跡、海岸侵食の事例として重要である。

（日向岬の海岸に分布するかつての火山活動の痕跡で大規模な柱状節理と海岸侵食が特徴）

《登録記念物の新登録》

【遺跡関係】 1件

1 ^{ほづみばし}穂積橋【愛媛県宇和島市】

「民法の父」と言われた^{ほづみのぶしげ}穂積陳重は生前、「^{ろうせい}老生は銅像にて^{どうきょうばんにん}同郷萬人に^{あおみ}仰ぎ視らるゝよりは橋となって公衆に^ふ履んで^{わた}渡らるゝを以て無上の光栄とす」と語ったという。昭和5年、その遺志に沿い、^{たつのがわ}辰野川の橋の改築に際し、橋の名を穂積橋と名付け、その人徳を偲んだ。

（「民法の父」穂積陳重の遺志に沿い、名付けられた辰野川に架かる橋）

【名勝地関係】 1件

1 ^{ひらたしえん}平田氏庭園【福岡県小郡市】

昭和初期に整備された豪商の住宅庭園。主庭は主屋、座敷、客殿などの建物に面し、分割して運搬した巨岩を当地で接合した、高さ約4mの滝石組が特徴。建物の配置を含めた空間構成がよく保存されており、九州の造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。

（昭和初期に整備された豪商の住宅庭園で、分割した複数の巨岩を接合した滝石組が特徴）

《重要文化的景観の新選定》

【重要文化的景観】 3件

1 もがみがわじょうりゅういき 最上川上流域における ながい まちばけい 長井の町景観【山形県長井市】

最上川上流域にある長井市の宮・小出地区は、江戸時代に最上川舟運の船着場が設置された地区であり、米沢藩の あおそぐら 青苧蔵、 じょうまいぐら 上米蔵などが置かれ、物資の集散地・商業地として栄えた。往時を継承する商家群、蔵、地割、水路などは最上川舟運の流通・往来に由来する町景観として重要である。

（江戸時代の最上川舟運の船着場に隣接して栄えた最上川上流域の町景観）

2 かつしかしばた 葛飾柴又の ぶんかてきけい 文化的景観【東京都葛飾区】

古代から続く人々の生活や往来を全体の基底としながら、近世初期に開基された帝釈天題経寺と近代になって発展した門前を中心に、それらの周囲に位置する旧家や寺社、江戸川、古くからの道などから成る景観。地域の人々の生活、歴史などによって形成され、それらを現在に伝える景観地として重要である。

（帝釈天題経寺とその門前を中心に、それらの周囲の旧家や寺社、江戸川、道などから成る景観）

3 ちづ りんぎょうけい 智頭の林業景観【鳥取県八頭郡智頭町】

智頭の林業は、樹齢約350年の慶長スギに象徴される江戸時代に始まる。林業の長い歴史の中で形成された景観であり、集落と周辺の人工林、林業で栄えた宿場町と周辺の山林、さらに天然スギと広葉樹林が広がる中山間地は、典型的な林業景観として重要である。

（江戸時代から続く林業の歴史の中で形成された西日本を代表する林業景観地）